

科目名	教育認識論特殊研究	担当者	オガサワラ 小笠原	ヒロヤス 喜康	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	--------------	------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>この授業では、教育において知識を学ぶというときの、その知識とはいったいなんなのかという問題を考える事を目的としている。古来より、この問題は哲学の二つの課題の一つであった。それは、私たちはどういう存在なのかという「存在論」と、私たちは世界をどのようにして知なのかという「認識論」である。この後者の問題は、もちろん前者に関わる問題があるが、近年の考え方は、それ以前とは極めて大きく変わっている。この授業では、そのことを理解する事が目的である。これがわかれば、教育の最も基礎的かつ根本的な問題の一つに迫ることができる。</p>		
到達目標	<p>到達目標は、現代の認識論を理解することはもちろんだが、それよりもこうした問題に関心をもつことが重要である。なぜなら、この問題は極めて教育の問題だからである。そのあたりのことが、自分なりに理解できるようになることが、あえていえば、到達目標といえなくもない。だが、勉強していけばわかるが、それは正に出発目標ともいえるものである。到達ではない。それがわかることが、むしろ重要である。</p>		
学修方法	<p>テキストは、前期も後期も平易であるが、慣れない内は、わからないところが多いと思われる。それは当然であるので、わからないところはとぼして読んでもよい。大切なのは、全体としての流れをつかむことである。現代の論理学・認識論がどこへ向かっているのか、それをつかんでもらいたい。このテキストは、論理の問題なので、理解のテクニックはない。自分で論理を追いながら読むことをお勧めする。前期のものは、第1部と第3部が重要である。後期のものは、後半が重要である。このあたりは、注意して読むようにしてもらいたい。</p>		
スケジュール	<p>前期は、提出は9月であるが、課題1・2とも、必ず草稿を出すようにしてほしい。したがって、課題1の草稿は、6月いっぱい、課題2の草稿は8月いっぱいに出してもらいたい。これは評価に関わるので注意してもらいたい。</p> <p>後期は、テキストが長いので、まず本論を読んでもらいたい。その上で、課題の草稿を書いてもらいたい。これも草稿を出すように。課題1の草稿は、11月いっぱい、課題に2については、12月中に草稿を出してもらいたい。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	50%	テキストの理解ができているかどうか。そしてそれに基づいて、自分の言葉で書かれているかどうか。
	平常評価	50%	草稿を出しているかどうか。
履修者への要望	<p>履修に当たっては、計画をたてて勉強するのはもちろんだが、文献にあたることと、自分の言葉で書く事を心がけていただきたい。文献は、CiNiiで手に入るものでかまわないので、関係するものを10編以上集めること。課題の提出においては、その集めたものを引用参考にすることが望ましい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 戸田山和久 教材名： 『知識の哲学』（産業図書，2002年）ISBN:978-4-78-280208-3 2,600円+税
	本書は、「知識」とはなにかという問題を非常にわかりやすく解説してくれる。教育においては、「わかる」ということが重要だが、頭だけでそれがきまるものかどうか。本書は、そうしたことを丁寧に分析してくれる。
参考図書	信原幸弘『心の現代哲学』（勁草書房，2002年）ISBN:978-4-32-615342-8 2,700円+税
履修上のポイント	この講義の目的は、「わかるとはなにか」という最も基本的な問題を最新の視点で切りわけることである。これまでの常識に頼らずに、自分で例を出して考えながら研究してもらいたい。
レポート課題 1	知識をもつという状態は、比喩的表現である。知識はモノではないので、「持つ」ことはできない。ではどういう状態なのか。教材を読んで自分なりに答えてください。
レポート課題 2	何かの知識をとりあげて、それがわかるというのはどういうことか、具体例をあげて考えて下さい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 戸田山和久 教材名： 『哲学入門』（ちくま新書，2014年）ISBN: 978-4-48-006768-5 1,000円+税
	認識の根本問題をわかりやすく、かつ共に考える形でかかれた良書。女子学生との対話形式で、認識論の根本問題を軽〜く扱っています。あつという間に読めますが、テーマ自体はかなり重い。ここで扱っている問題は、私たちの認識の根本問題。
参考図書	野矢茂樹『語りえぬものを語る』（講談社，2011年）ISBN: 978-4-06-217095-6 2,500円+税
履修上のポイント	教材 1 での議論をよく理解していないと、この本の意味はわからない。ものすごく簡単な語り口だが、余談の方に流れないように注意してください。
レポート課題 1	この中のテーマの一つを選んで、あなたの日常生活にある事例を例に、あなたの考えをのべてください。
レポート課題 2	経験と認識について、あなたの考えをのべてください。